

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04566

研究課題名（和文）「履歴史料」に基づく近代日本におけるサブエリートの学習歴とキャリア形成の解明

研究課題名（英文）Study History and Career Formation of the Junior Official in Modern Japan

研究代表者

池田 雅則（Ikeda, Masanori）

兵庫県立大学・看護学部・教授

研究者番号：60609783

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）： 森林官吏（営林職員）や 警察官吏（警部・警部補）に関連する史料、 現役満期陸軍下士出身者の文官任用に関わる史料を読み進め学術論文として発表した。

この他、 1880～90年代に制定された文官普通試験の規則に関する史料、 最低俸給額未滿で任用された判任文官の初任に至るまでの学習歴およびキャリアの分析、 1887年「文官試験試補及見習規則」の公布に至るまでの文官任用諸案の検討、 初期の文官普通試験の出題傾向と水準、 結果に関する分析、 事務官と区別された技術官の成立に関する史的研究、 判任技術官の学習歴およびキャリアの分析を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は「ストリートレベル公務員の 学び とキャリアの履歴」の貴重な成果としての意義がある。「履歴史料」という「履歴書や任免記録などの「当人の学業、 職業や賞罰等の経歴および出自について公的に記録・証明する文書」を広く活用しながら、 近代社会のサブエリートとして、 近代的な知識、 制度、 技術や慣行を理解し日本社会に定着させる基盤となった者たちの学習歴とキャリア形成について、 各地の公文書館に所蔵されている膨大な「履歴史料」に基づき明らかにできた。

かれらは地域社会に生きるリーダーとして、 知識の体系を住民に伝達できる能力を有した。その形成において多様で複雑な学習歴と職歴を歩んでいたことを示すことができた。

研究成果の概要（英文）： Three papers were published as academic papers after reading historical documents related to (1) forestry officers, (2) police officials (inspectors and lieutenants), and (3) enlisted men appointed as civilian officials. The following studies were conducted: (1) Records on the rules and regulations for the civilian regular examinations established in the 1880s and 1890s; (2) Analysis of the study history and careers of magistrate civilian officials who were appointed with salaries below the minimum salary level up to their initial appointment; (3) Examination of various plans for appointing civilian officials up to the promulgation of the "Rules for the Test of Assistant and Apprentice for Civilian Officials" in 1887; (4) Analysis of the trends, standards and results of the early civilian regular examinations; (5) Study on the formation of technical officials, who are distinguished from administrative officials; (6) Study history and career analysis of magistrate technical officials.

研究分野：教育学

キーワード：判任文官 教員 明治 文官普通試験 特別任用

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景をなす研究動向は、次のように教育学、行政学、歴史学と多岐に渉る。具体的には教員研究、公務員研究、教育メディア研究および人材養成機関の研究である。研究課題ごとに少なくない研究の蓄積があるものの、次に挙げる課題がみられる。頂点的なエリート、男性、学校を対象とした研究の偏りがある。制度に関わる研究が先行しており、個人に着目した研究は著名人の回想録や伝記などの活字メディアの活用にとどまっている。量的な把握と分析を通じた、時代的傾向を明らかにする研究が十分に組み込まれていない。

ただし労働史・経営史においては、比較的上記の課題を乗り越えることを目指した研究の蓄積がある。本研究では、そうした他領域における先端事例を取り込み、そこに「学習」という教育的関心を込めた研究を目指す。

### 2. 研究の目的

現代的に言えば、本研究は「地方公務員と女性教員の 学び とキャリアの履歴」の研究となる。近代社会のサブエリートとして、近代的な知識、制度、技術や慣行を理解し日本社会に定着させる基盤となった者たちの学習歴とキャリア形成について、各地の公文書館に所蔵されている膨大な「履歴史料」に基づき明らかにすることである。

「履歴史料」とは、履歴書や任免記録などの「当人の学業、職業や賞罰等の経歴および出自について公的に記録・証明する文書」である。

教育史では男性教員の学習歴とキャリア形成を対象とした研究が蓄積しているため、本研究では同性内の比較事例として地方官吏（判任官）、女性教員を取り上げたい。かれらは男性教員と同様に地域社会に生きるリーダーとして、知識の体系を住民に伝達できる能力（literacy）を有した。そして、かれらはその能力を得るために正規の学校に限らない多様で複雑な学習機会を活用していた。明治期の履歴書や任免記録から、その実像を明らかにする。

### 3. 研究の方法

当初は蓄積した研究成果の整理・発表をするとともに、先行研究の整理をより確かにする。これと並行して、目録調査や実地調査によって「履歴史料」の所蔵が確認できた公文書館や史料館で調査を行う。収集した史料を解読・整理してデータベース化を進める。その上でデータベースに基づいた量的研究を行い、地域間、職務・職階や階層間、男性教員との比較研究を行う。

そして、地方官吏や女性教員が複線的で複雑な学習歴を蓄積させていた実態と、かれらの学習歴とキャリア形成が徐々に正規の学校教育の枠内に吸収されていくとともに、より広い階層の者が地位を求めた学習とキャリア形成に巻き込まれていく様子を明らかにしていく。

具体的には、楷書体、行書体の毛筆で記述された多数の「履歴史料」の整理を試みる。こうした「履歴史料」は、各都道府県のアーカイブに所蔵されていることが確認される。目録の調査を通して、経年的に大量の「履歴史料」が収集可能なアーカイブに集中的に入って史料を撮影する。そして、収集した「履歴史料」に掲載された情報を整理してデータベース化する。例えば、出生地、学習歴、資格取得歴、職歴、異動・昇進、給与額や、任用の根拠となる文言などである。

研究代表者である池田は、地方官吏に関わる研究を実施する。研究分担者である山下は、女性教員に関わる研究を実施する。男性教員との比較については、2人が共同して実施する。

### 4. 研究成果

途中年度で新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令などにより研究遂行に支障が出たため、当初計画より実施年度を3年度延長した。これら支障により、繰り返し研究計画の練り直しや修正を迫られたが、制限された範囲における研究成果を上げることはできた。

2017年度において重点をおいた作業は、収集史料の整理と読解であった。収集史料の整理については、これまで収集した史料をナンバリングした上で、履歴管理ソフトを活用して、データの入力を進めた。収集史料の読解については、既に収集が済んでいる史料の読解を進めた。森林官吏（営林職員）に関連する史料、1880～90年代に制定された文官普通試験の規則に関する史料について重点的に読解を進めた。これらのテーマは先行研究が皆無であり、新奇性が認められるものであった。森林官吏は特別任用制度が早々に導入された。当初は大幅な基準引き下げがなされたが、職域の専門性が高まるにつれて基準も向上し、また任用方法も他の官吏から自律していったことを明らかにできた。具体的には当初は、専門性がないが地域の地形に詳しい地元の有力者が名誉職的に関与していた。農商務省の山林局の組織、山林学校（帝国大学農学部林学科）や関連する講習会などが整備されていくとともに人材育成が進んだことで徐々に官職の専門性が高まっていった。文官普通試験の規則に関しては、政府が定めた出題範囲は必ずしも守られず官庁の必要に応じた範囲の設定がなされたことを明らかにできた。具体的には、当初の文官試験局の内規では旧制中学校卒業程度と範囲による出題が想定されていた。しかし各官庁は、業務の性質に応じて、出題範囲を狭める、もしくは新たな科目を設定した。加えて、出題の水準も卒業程度より低めたりした。そのことで、学歴と試験の対応関係が大きくズレていった。

並行して、史料調査も行った。岡崎市立図書館、愛知県立公文書館、同図書館、岐阜県立歴史資料館などでの史料調査を実施した。以上の先行研究の検討、史料調査やその整理を踏まえて、2018年度には、研究代表者が2本（いずれも査読付）研究分担者が1本の論考を発表することができた。研究代表者は、特別任用制度が導入された官吏の任用制度の変遷について論じた。森林官および警察官を対象とした論考を学術誌に投稿し、査読を経て、掲載された。研究分担者は、明治前期の地域社会における貴重な学習機会であった町村立中学校に関する報告書をまとめた。

2019年度末より新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、出張の自粛が求められた。また、史料館が閉鎖される事態にもなった。そのため、現地訪問による史料収集ができなかった。このことを受けて、2022年度まで研究期間を延長することになった。

2019年度の研究成果としては、研究代表者が単著論文を1本執筆した。現役満期となった陸軍下士が判任文官に任用される制度の運用実態について検討を加えた。その結果、先行研究が示した見解とは異なる実態を見い出すことができた。すなわち、陸軍省の属官や技術官を任用する際の独占的な経路として現役満期陸軍下士出身者が重用されたこと、他方で陸軍省以外の官庁ではこの経路が重んじられなかったことが解明された。また、研究代表者のこれまでの研究実績が認められ、日本教育学会での若手研究者ワークショップで研究キャリアに関する登壇者として教育史領域の代表に選出された。その際に、現在実施している、本課題研究について紹介をした。

2020年度から2022年度に至るまでは、新型コロナウイルス感染症対策による校務の繁劇により研究成果の発表はできなかったものの、最低俸給額未満で任用された判任文官の初任に至るまでの学習歴およびキャリアの分析、1887年「文官試験試補及見習規則」の公布に至るまでの文官任用諸案の検討、初期の文官普通試験の出題傾向と水準、結果に関する分析、事務官と区別された技術官の成立に関する史的研究、判任技術官の学習歴およびキャリアの分析を進めた。2022年度末の段階で、の成果について、2023年度前半期の学会で発表するエントリーをしている。これ以外の成果についても、2023年度以降順次報告する準備が整いつつある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 池田雅則	4. 巻 28
2. 論文標題 1880～90年代における陸軍下士出身者の判任文官への任用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 池田雅則	4. 巻 27
2. 論文標題 明治期における判任警察官吏の任用と求められた能力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 池田雅則	4. 巻 10
2. 論文標題 明治期における判任文官の任用 森林官吏の特別任用制度に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育史学会紀要	6. 最初と最後の頁 41-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山下廉太郎	4. 巻 1
2. 論文標題 明治前期の中学校の制度的展開 - 宝飯中学校誕生前夜 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三河ではじめての中学校 宝飯中学校	6. 最初と最後の頁 17-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 池田雅則
2. 発表標題 日本教育学会第79回大会若手研究者ワークショップ 気鋭の研究者に学ぶ(教育史領域).
3. 学会等名 日本教育学会第79回大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 神辺靖光, 米田俊彦, 田中智子, 熊澤恵理子, 杉浦由香里, 池田雅則	4. 発行年 2018年
2. 出版社 梓出版社	5. 総ページ数 672
3. 書名 明治前期中学校形成史 府県別編	

1. 著者名 港区教育委員会(編)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 港区教育委員会	5. 総ページ数 330
3. 書名 港区教育史 くらしと教育編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山下 廉太郎  (Yamashita Rentaro)  (80770932)	朝日大学・その他部局等・教授    (33703)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------